

アジアの土

アジア学院からのニュース

TOPIC

ミャンマーを思う

Myanmar We Care

パンクイさん（'11卒・後列左から2番目）ご一家とマナさん（'19卒・右端）。2020年2月撮影。

2月1日に発生したミャンマー国軍によるクーデター以来、市民への激しい弾圧が続いており、現地のアジア学院卒業生の活動や生活にも深刻な影響が及んでいます。今号では、一日も早く平和が訪れることを願い、アジア学院と深い関わりを持つミャンマーと卒業生の今を特集します。

アジア学院とミャンマーとの

長く深いつながり

荒川 朋子（校長）

アジア学院は1982年に初めてミャンマーから学生を迎えました。それ以来ミャンマーからはほぼ毎年学生を受け入れ、これまで90名を数えます。そのうちの約半数はミャンマー・バプテスト連盟の下部組織の農村開発部門のスタッフで、この教会はまさに組織を上げて農村開発部門を担う人材育成をアジア学院に託してきたと言えます。

ミャンマー・バプテスト連盟はミャンマー全土に18の下部組織を持ち、主に少数民族の住む地域にキリスト教を布教し、教育、医療、農業など幅広く人々の生活を支える活動を展開してきました。かつては民族間の公正を保つために18の下部組織から順番にアジア学院に応募がありました。2000年以降は地方の下部組織が独自に応募者を選定して、直接応募するようになってきました。2003年には当時では珍しい、牧師たちによって組織されたNGOからの応募が始まりました。バプテスト教会以外の宗派からの応募も多く、さらに卒業

生たちがクリスチャンだけでなく仏教徒と協働する強い意思を示して、仏教系の団体を推薦するようにもなりました。いつしかミャンマーからは毎年多くの優れた応募者が殺到することになり、これまで「1国から3人まで」という学生数の上限の原則を超えることも度々ありました。

私はミャンマーはアジア学院の農村指導者育成の研修が最も活かされる地域のひとつであると思っています。様々な困難を抱えるミャンマーの辺境の地で、人々の精神的、物質的、社会的ニーズを満たすために献身的に地道に働く牧師や草の根のリーダーたちの姿は、アジア学院の農村指導者のイメージそのものです。ですからアジア学院のカリキュラムは、ミャンマーの学生のニーズに応えることができてきたと感じています。そのニーズはまだ高いはずですが、コロナ禍とクーデターによる混乱が収束し、再びミャンマーからの学生を迎える日を心待ちにしています。

私は東京、早稲田にあるカレン・クリスチャン・ムーブメントという東京在住のカレン族のための教会の牧師を務めています。この教会は2009年に私が中心になって創設した集会所から始まり、日本バプテスト同盟の東京平和教会に属する3つのミャンマー人の教会の1つとして2012年4月12日に正式に認められました。現在約60名の教会員がいます。

私は2003年にミャンマー・バプテスト連盟からアジア学院に送られ、その際に日本にいるミャンマー人のための教会が東京にあることを知りました。しかしカレン族のクリスチャンの友人から、カレン族のための教会がないことを聞かされ、いつか自分がそのために

在日ミャンマー人牧師として私にできること



ニニ・ミン ('03卒)
カレン・クリスチャン・ムーブメント牧師

めに遭わされることを祈っています。日本にいるミャンマー人は軍事政権下での迫害を恐れ、日本政府に難民認定された人や難民認定申請中の人が少なくありません。2008年に私の祈りは聞き入れられ、再び来日しましたが、宗教ビザが下りるまでに8年の年月を費やしました。

今年2月にクーデターが勃発してから、ミャンマーに募金や必要な物資を送り、日本からできることを続けています。180人ほどが参加する週一回のミャンマーのためのオンライン祈り会も30回近くになりました。ミャンマー国内でコロナで家族が亡くなった教会員のために告別式をオンラインで執り行うこともあります。今週はもう3回も司式しました。どうかミャンマーのために祈りください。

いま、私にできること

牧師として日本で働くミャンマー人卒業生と、ミャンマー駐在経験のある日本人卒業生の二人にミャンマーへの思いを聞きました。



山崎 陽子 ('99卒、'00研究科生)
JICA 専門家 (エチオピア駐在)

身近なことから、具体的な継続的なアクションを

2013年から3年間、ミャンマーで農業分野のODA事業に従事していました。仕事でも私生活でも、ミャンマーの人々の実直さに感銘を受け、民主化・経済自由化が急速に進む社会のダイナミクスを感じる日々でした。

ミャンマー人と最初に接したのは、アジア学院学生の時です。当時、軍事政権下のミャンマーから来た学生は、旅券取得にとっても苦労したこと、費用を工面するため装飾品を売ったこと、生活の端々に国軍の監視があることなどを話してくれました。特に少数民族地域から来ていた学生は、自身が農民でもあるため農作業が大変上手く、農作業

の時間には、水平で真っすぐな敵をあっという間に立てる様子に惚れ惚れしたものです。

今年2月1日からの出来事については、怒り、悔しさ、悲しみ、焦りなど、とても説明しきれない思いを抱えています。あんなに希望が溢れていた国が瓦解していくのを見るのは本当に辛く、しかし、何とか少しでも出来ることをしなければ、と感じています。募金などの支援はもちろん、SNSでミャンマーの情報に触れる、ミャンマー料理を食べてみるなど、身近なことから良いのです。ミャンマーのために祈る思いを、個人として、あるいは組織として、どれだけ具体的なアクションに繋がれるか、またそれを継続できるか。私たち日本人の姿勢も問われているのだと思います。

ミャンマー農村のために緊急募金のお願い

この度の卒業生たちからの悲痛な報告を受け、何とかして彼らの力になりたいという思いから緊急募金を行います。日本在住のミャンマー人卒業生を通して、ミャンマーの現場で必要としている卒業生の元にしっかりと届けます。皆様の思いをぜひ託してください。



ミャンマー緊急募金専用口座

期間：2021年12月20日まで
銀行名：足利銀行西那須野支店
口座番号：2962221
口座名義：学校法人アジア学院
※寄付控除は受けられません。
※領収書をご希望の方はご連絡ください。

ミャンマーを思う



圧政の中から届く声

国軍による弾圧に伴う死者が1000人を超えたことが、ミャンマーの人権団体により明らかにされました(8月18日)。圧政によって通信がままならない状況下、卒業生から生々しい現地の様子が本学院職員あてに時折届けられてきます。その中のいくつかを皆様にお伝えいたします。

瓦礫に描かれた壁画「民衆が勝つ」という意のメッセージ

「多くの人々が山に逃れ、下痢、病気、水不足に苦しんでいます。私は毎日銃弾の下を通っています。クーデターは通信、食料、金融、人間関係の4つを断ち切りました。そのせいで食料を送りあうことができません。とても悲しいです。」(6月5日)

「息子は1か月前に避難民に食料を届けに行った時から行方不明でした。数日前、彼の友人から、彼はその時に軍に拘束されて今も拘留されていると知らされました。」(6月22日)



山に逃れ、森の中で避難生活をする住民

「私の町は不安定な状況で、人々は内乱で苦しんでいます。だから選択の余地はありません。私たちは自由のために戦い、勝たねばならないのです。この革命を生きのび、いつか皆さんに会えることを願っています。また、私は1500人の避難民(多くは高齢者と子供)の食料と薬を用意しています。今では私の町に2万人を超える避難民がいます。とても心が痛みます。この残酷な世界にどう打ち勝つのかと、孤独と失望を覚えるときもあります。どうか私たちのために祈ってください。」(6月26日)

「昨夜は激しい銃声が何度も聞こえました。こんなことが日常茶飯事になってしまいました。」(8月7日)



卒業生の自宅付近で起こった爆撃

「私の町に住む親子は、ただ家の中にいただけで銃撃にあいました。不服従運動に加わっているかどうかは関係なく、軍の弾圧は市民全体に及んでいます。」(8月15日)

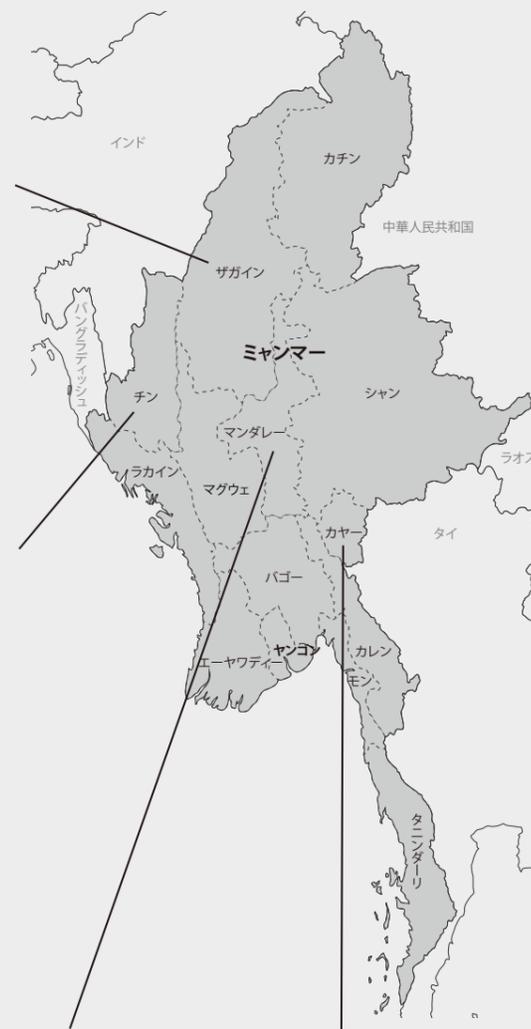
クーデターもコロナ禍もなかった2020年2月、ミャンマーではアジア学院卒業生の同窓会が開かれ、彼らが農村にもたらしてきた数々の変化が共有されました。一日も早く、再びこのように自由に活動ができることを願いつつ、報告の一部を紹介します。



江村 悠子
専任・国内事業課

ミャンマーの農村指導者たち

ミャンマーの卒業生紹介



ティ・ティ・ウィン ('14卒)

ティティさんは仏教団体であるカリヤナ・ミッタ開発基金にて、環境、平和、農業などに関する勉強会を多数行ってきました。アジア学院卒業後は若い農家のネットワークを創設し、リーダーシップや有機農業のプログラムを行いました。当初、参加者は男性ばかりでしたが、懸命な働きかけによって女性も参加するようになりました。同窓会当時はカリヤナにて青年グループを取りまとめる働きをしつつ、高校や大学向けに環境意識を高める運動にも参加していました。



パン・クイ ('11卒)

カンベレッ市バプテスト連盟で牧師として働くパンクイさんは自分の村で森林保護に熱心に取り組んでおり、20の村からなる先住民ネットワークの創設にかかわりました。このネットワークは森林、河川、生物多様性を保護する協定を推進し、村人向けの勉強会を開催していました。「山にスーパーマーケットはない。森が僕たちのマーケットだ。」輸出用に大量に栽培した作物で稼いで食べ物を買う人が増える中、パンクイさんは、森があれば自分たちの食べ物を自分たちで得ることができるのだと人々に教えていました。



タウン・スイー ('12卒)

タウンスイーさんはピー・ウー・ルウィンにあるリス神学校開発学部にて学部長を務めていました。彼の推進した、カリキュラムに農業と持続可能性を取り入れた「持続可能な生活研修 (SLT) コース」は大変人気で、学校の入学者増加につながり、国内外から多くの人々が視察にやってきました。彼の夢は農業を通して人々が自立し、地球の良き管理者となることです。「私たちが持続可能な生活を研修することで、人は農業を通して神の愛を知るのです。」キリスト教の他教派や仏教の僧侶とも積極的に協働していました。



ノー・リー・ミャー ('98卒/'07研究科生/'08-'09職員)

ミャーさんはカヤー・ブ・バプテスト協会で25年間勤務し、うち最後の9年間は社会奉仕ならびに開発部の部長を務めました。地域のコミュニティや女性グループに向けて、公衆衛生、女性の地位向上、小規模事業など多くのトレーニングを主催していました。地域のリーダーとして少数民族と政府軍との和平プロセスにも参加し、ミャンマー人民フォーラムで女性と子どもの人権について講演を行うこともあり、同窓会当時はちょうど最長任期を終え、自分の農場により時間をかける予定でした。

2021研修 中間報告



今だからできる、一人ひとりに合わせた研修

□ ロナ禍の困難と混乱も2年目です。昨年度はなんとか本科生10名(日本人学生2名を含む)と研究科生1名がいましたが、今年は一人も海外からの学生を迎えることができず、今に至っています。これはアジア学院のみならず、どの学校でも同じ状況です。

入国制限が少しでも緩和されれば、9月からの第二期研修開始も視野に入れていましたが、現時点ではそれも実現していません。

それでも私たちは止まることなく、日本人学生3名と、6月からは日本在住のギニア人学生1名を迎え、わずか4人ではありますが研修を続けています。むしろ4人だからこそできることもあります。授業のバックアップはいつも手厚く、理解が難しい分野や興味の強い分野があれば新たな授業が追加されています。例えば農業の基礎知識や用語を調べたり、「農村指導者とは何か」を卒業生の活動を通して学ぶ授業が実施されました。元々アジア学院のカリキュラムは学生のニーズに合わせて柔軟に対応していますが、今年はより学生に合わせた研修が行われています。

「こんな年に来るなんて運が悪かった」ではなく「今年、研修を受けることができよかった」と思える研修内容にするために、アジア学院の挑戦は続いています。



大柳 由紀子
副校長/教務主任

VOICE

アジア学院の住民たち



ファティマ
Fatima
2021年度
学生

ギニア

ファトウマタ・ディアライ・バー

ファティマは西アフリカのギニア出身の女性です。大学卒業後に母国での政治的混乱に巻き込まれ、日本に逃れてきました。難民申請中ですが、母国に帰りたい思いを強く持っています。「ギニアに戻れなくても、周辺国にいったん行くことも視野に入れてます。でも、その時に空っぽのアタマで帰りたくないんです」と学びの機会を探していたファティマ。幸いにして彼女の支援者の一人がアジア学院のことを知り、彼女を私たちとつなげてくれました。「農村で働くことを目指しています」という彼女は、農業もリーダーシップも真剣に取り組んでいます。

ご支援に感謝いたします

2021年5月1日～7月31日（敬称略・順不同）

SUPPORTER'S PAGE

サポーター寄付 一般寄付 寄付者御芳名

【北海道】井澤敏郎 久世礼子 浜島和子 【青森県】木村幸子
【宮城県】木村すげみ 庄子康子 根廻頼子 門間清 東北部会
女性会 【秋田県】大友武夫 【山形県】須藤フミ 富樫俊悦
原田加矢乃 【福島県】会津田島教会石田龍三・富子
大島正太郎 松谷健司 【茨城県】岩田朗 遠藤桂 大柳綾子
本田香織 宮崎昌久 IKE 設計開発事務所 【栃木県】阿久津隆
阿久津正幸 鮎瀬征夫 荒川朋子 粟谷しのぶ 飯島恵子
飯沼一浩・淳子 伊藤順子 印南道也 植竹伸一 大谷雅代

大塚宏一 大森貴子 大柳由紀子 小倉一郎・恭子 鍛冶美奈子 片桐洋史 川上聖子
吉川宗芳 木村裕子 黒田泰弘 小久保久子 小島美香 駒庭千秋 駒場昌子 坂入貴子
佐藤範明 椎貝桃子 塩水賢太郎・麻紀子 嶋田房義 鈴木輝夫・ユキ子 田中淳子
中川善昭 並木レベッカ 西田京子 丹羽芳雄 林真智子 原田時近 原田三恵子 潘炯旭
廣田曉信 福田良子 福本光夫 伏見卓 又木成美 McCurley 里美 松田一彦 三橋恵子
宮岡明子 三宅隆史 村田榮 森良子 森川有理 八木沢弘美 八巻恵美子 (教) 宇都宮東伝道所
(カ) 大田原教会 河内キリスト教会 帰農志塾 (学) さつき幼稚園 (カ) 厳律シスター会
那須の聖母修道院 (教) 那須塩原教会 (教) 西那須野教会 (教) 矢板教会

【群馬県】亀田慎也 興石勇 永井順子 松田基宣 【埼玉県】東治子 大手明男・真佐子
金刺裕美・泰雄 河島清 小西義昭・さい子 鈴木俊之 田鎖夕衣子 武真人 田嶋公一・明子
千村雅信 戸井田紗耶香 BaylesJohn 眞壁史郎 武藤陽一 柳澤芳信 (教) 上尾合同教会
(教) 関東教区宣教部委員会 【千葉県】猪狩友行・多佳子 石崎利夫 太田賢 金子聡子
佐久間健 佐藤伊一郎 佐藤豊美 関偉子 矢口敏和・愛子 山崎尚子 山本栄子
【東京都】(公) 聖マーガレット教会 ArthursonDevon 青山比呂乃 浅川ズヤールリッチ 葉子
安達伸子 李秀夫 犬塚豪 犬丸敬子 岩切勉 Williamsikuko 鷲崎創 梅澤やよひ
大橋祐治 片岡大造・仁枝 金子智雄 加納貞彦 神谷幸男 柄澤真理子 河本壽恵乃
菊池泰子 岸まち子 木村嗣子 草深扶美子 久世陽子 栗山規子 栗山昌子 黒田俊介
小泉充也 後藤政美 小林元子 佐藤照子 佐藤雅子 澤田祥子 志田悦子 柴崎等
篤信彦 鈴木佳子 鈴木隆・美智子 高野美恵子 高橋馨 高橋理佳 出口禎子
寺嶋公子 賛川治樹 浜田めぐみ 林俊行 麗治夫 本田典子 丸本和子 丸山正文
三田町子 三井純子 森哲也 森川恵美子 山岡清二 山口俊夫 山田正 八橋真也

渡辺悦子 渡辺多恵子 (公) インマヌエル新生教会 ウェスト東京ユニオンチャーチ
(公) 大森聖アグネス教会 (公) 葛飾茨十字教会 (公) 小金井聖公会 国際基督教大学教会
国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会 (学) 女子学院 (公) 聖オルバン教会
(公) 聖パウロ教会 (公) 聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂 (公) 東京諸聖徒教会
(公) 東京聖テモテ教会 東京ユニオンチャーチ 東洋英和女学院中南部宗教委員会
(公) 八王子復活教会 (教) 原宿教会子どもの礼拝 明治学院中学校 / 東村山高高等学校
(教) 早稲田教会 【神奈川県】浅野康一 阿部恵 天野潤 荒井明子 石田伊志子
今川信夫 岩澤裕基 梅澤昌子 江坂宏子 海老根智一 遠藤抱一 遠藤道子 大石三枝子
加納昌子 小暮修也 佐藤牧 進宏一 鈴木良子 鷲見八重子 関根ゆかり 東方敬信
中本尚孝 西岡伸子 本田忠行 松島直子 彌重仁也 山口周三・和枝 横野千晶
(教) 鎌倉雪ノ下教会 (カ) レデンプトリステン修道院 【新潟県】荒井眞理
【石川県】俵友恵 【長野県】青木栄作 小野寺土菜 西島博 【岐阜県】田川徹
【静岡県】武井陽一 星野正興 松村芳男 山下清二 【愛知県】荒川勉 塚田昇 吉田昌夫

【京都府】井村千鶴子 上田祐未 櫻井鋭子 細井順 前川裕 丸谷一耕
MorimotoHermansenChristian レリヨーサ真美子 (教) 洛陽教会 【大阪府】大本和子
川俣茂 国枝春巳 陳野友洋 谷佐代子 松本忠明 見満紀子 山下敏正 【兵庫県】今井真理
加輪上敏彦 黒田喜久子 島田恒 中平真由 山本愛子 山本佳子
神戸ユニオンプロテスタント教会 【奈良県】(教) 大和キリスト教会支援委員会
【岡山県】岡崎優子 河井宇史 【広島県】高石孝子 野村篤子 【山口県】片山由美子
【香川県】木村富美子 【愛媛県】泉川君子 【福岡県】中島菜々子 【佐賀県】英語教室
MOTO 【熊本県】川本真 宮崎房子 【鹿児島県】大谷ともよ 【沖縄県】小笠原春野
【海外】LoPresti Terra AFARI United Methodist Committee カナダ合同教会 UCCJGER
The United Church of Canada Common Services Corporation United Church of Christ

寄付金 実績状況	5月 1,057,334円 6月 12,102,461円 7月 14,711,710円 合計 27,871,505円
-------------	---

寄付金領収書について
口座振替・クレジットカードでご寄
付頂いた場合、所得税法により領収
書の発行及び領収日は、アジア学院
に入金された日とさせていただきます。

書き損じハガキ 寄付者御芳名

【山形県】菅野秀秀 【福島県】石田富子 【茨城県】伏木節子
【栃木県】赤羽浩子 宇賀神浩人 小野瀬美砂子 加藤正雄
北川裕明 永野通夫 宇都宮友の会 臥龍会 (株) タカダ
ヒヤメ種苗店 【群馬県】長谷川輝男・千恵 前橋友の会
【埼玉県】石橋悦子 細川武 【千葉県】杉浦孝夫 松本希和
(パ同) 蓮河キリスト教会 【東京都】浅野典子 安達伸子 岩切勉

岡本和子 小見寿 楠田修司 小島文子 小谷野雅晴 高瀬まゆみ 高橋直子 中村美果子 原英左恵
三井純子 【神奈川県】秋山美知子 岡林みどり 内藤美穂子 弘中章子 堀川浩邦 恵子
(キ) 大和教会 【岐阜県】谷口明 【静岡県】丸山信子 山中忍 【愛知県】林真史 【三重県】加藤弘子
【兵庫県】(教) 宝塚教会

【北海道】北海道エコビレッジ推進プロジェクト
【茨城県】成島良幸 【栃木県】石井信子 アイエス厨房磯幸一
柏谷重明 郡司いく子 坂入貴子 塩水麻紀子 嶋田房義 清水益夫
千保美奈子 高田文恵 田中順子 田村曉美 土屋郁子 潘炯旭
藤田弘子 小川万里子 嶺教子 那須塩原市役所 (特活) フードパ
ンク県北 【東京都】李秀夫 河本壽恵乃 山田貴司

【神奈川県】大上宏美 【愛知県】深谷ひろみ 【京都府】千田悦子 【海外】KimHyungjin

(医) 医療法人 (医社) 医療法人社団 (学) 学校法人 (カ) カトリック (株) 株式会社
(教) 日本基督教団 (キ) 日本キリスト教会 (公) 日本聖公会 (公財) 公益財団法人
(公社) 公益社団法人 (財) 財団法人 (社) 社団法人 (宗) 宗教法人
(特活) 特定非営利活動法人 (パ同) 日本バプテスト同盟
(福ル) 日本福音ルーテル教会 (有) 有限会社

【お知らせ】ゆうちょ口座間送金の手数料が2020年4月1日より100円になりました。



収穫
感謝

夏野菜の収穫

そして季節は秋へ

やっぱり
食べものが
大事



櫻井将伸
フードライフ課
野菜・作物

夏 本番を迎えたアジア学院
では、果菜類の収穫が最
盛期を迎えています。キュウリ
やトマト、ニガウリにオクラは
ほぼ毎日収穫できます。ナスに
は紫ナスと青ナスの二種類があ
り、これらは秋まで収穫ができ
そうです。スイカも大きくなっ
てきたのでカラスにつつかれな
いよう保護することも忘れませ
ん。どの野菜も今年の春先には
小さな苗でした。学生とボラン
ティアが協力して畑で育てた野
菜です。収穫の喜びに自分で栽
培した野菜を食べる幸せが加わ
り、暑い夏の畑仕事にも力が入
ります。

今年のアジア学院はとくにト
マト栽培に力を入れています。
新品種のトマトを導入し、「放
任栽培」と呼ばれる手法で育て
ています。普通のトマト栽培で
は脇芽をすべて取り除き、一本
仕立て、あるいは二本仕立てで
育てることが一般的です。しか
しこの放任栽培では、トマト苗
の定植後は三節目以降の脇芽を
取ることなくそのまま伸ばし放
題にして育てます。トマトの草
体を支える支柱が必要となりま
すが、アジア学院では鉄パイプ
ではなく竹を切り出して作りま



した。やや不恰好ではありますが、
が、機能的には何ら問題ありま
せん。はじめての試みでしたの
で不安なこともありましたが、
トマトの脇芽を取ることをしな
いため、作業の軽減にもつな
がる上、収穫も普段と同様にでき
ているため、来年もこのトマト
の放任栽培を継続していこうと
考えています。

世界はまだ新型コロナウイルスウ
イルス禍の中にありますが、人
その生存を確実にするために食
料の安定生産と供給が不可欠
です。これからのアジア学院は、
有機農産物の自給自足をこれ
まで通り高く維持し、この世界
の中で「共に生きるために」何
ができるのか考えていきます。

訃報 新型コロナウィルスによって召天



5月7日
ティル・クマリ・ブン
'04卒 ネパール
享年52歳

ネパールにて、夫でアジア学院同期の藤井牧人さんと共に農業を
営み、ほぼ自給自足の生活を送っていました。2人の最近の様子は
『euodoō(ユオードー)』の最新号(第5号)に藤井牧人さんが綴っ
ています(「生きたモノに囲まれて暮らす」)。その直ぐ後で
ティルさんは天に召されました。発症からわずか10日後でした。



8月5日
ソー・メルビン
'94卒 ミャンマー
享年80歳

医療、保育事業そして農業を事業とする珍しいYMCAとして、ネ
ピドーYMCA(旧イエジンYMCA)を長く牽引しました。医師の
実兄、助産婦の妻、看護師の義娘、後にネピドーのYMCAの総主
事となる次男のジャクソン('03卒、'09研究科生)など、家族を総
動員してネピドーYMCAの活動に生涯を捧げました。彼の事業を
支援する横浜YMCAと長く交流を持っていました。妻のマリーナ
さんもメルビンさんが亡くなる3日前に新型コロナウィルスによ
って亡くなりました。

アジア学院太陽光発電レポート

2020年9月にコイノニア食堂の屋根に設置された太陽光パネル。その発電量や環境貢献度を、これから毎号掲載していきます。



DATA 2020年10月～2021年7月

累積発電量	CO ₂ 排出削減量	成木: 508本
15,793 kWh	7,115 kg-CO₂	石油: 3,585 ℓ

古本市

Used Book Market

ベストセラー・文庫・書籍・絵本・美術書など...

日本各地から寄贈された古本が全品 **100円**～

運命の本との偶然の出会いがあるかも!

11月5日(金)～11月20日(土)

OPEN 11:00～17:00

会場: 那須セミナーハウス
那須塩原市槻沢420-22 (アジア学院隣接)

古本
募集中!

第49回「収穫感謝の日(HTC)」

10月9日(土) オンライン開催



動画へのアクセス
および詳しい内容は
ホームページやSNSで
随時お知らせ
いたします。



今年の収穫感謝の日はコロナ禍につき、オンラインのみで開催いたします。離れていても、収穫の喜びを分かち合い、いつも支えてくださる皆様への感謝をお伝えできるよう、動画配信によるさまざまな企画をご用意いたします。

配信予定コンテンツ



10/9 収穫感謝セレモニー
10/9 ステージパフォーマンス
10/9 学生と話そう
9月～ **カウントダウン! HTC**
毎週土曜日 HTCに向けて気分を高めるプレ企画として動画を配信中。

and
more...!!

オンラインのみの開催につき、
会場へはお越しいただけませんのでご了承ください。

3ヶ月～12ヶ月 / 長期滞在ボランティア 大募集中!!

アジア学院コミュニティの中で一緒に暮らし、
一緒に働いてくれる仲間を求めています!



★こんな方におすすめ★

- ★農業を体験したい!
- ★英語力を伸ばしたい!
- ★多文化コミュニティの中で暮らしてみたい!

詳しくはHPをご覧ください



本年度は学生だけでなく長期ボランティアの人数も例年より少なく、農作業全般や調理、事務などで、特に10月以降に人手が不足することが見込まれます。

年度の途中ですが、学院の運営をお手伝いくださる長期ボランティアを募集いたしますので、ご興味のある方はどうぞお気軽にお問合せください。10月中旬に着任が決まった方には食費補助などの特典があります!

お問合せ先: info@ari-edu.org (担当: 佐藤)